



大松台

令和6年6月21日発行号



〒206-0034 東京都多摩市鶴牧6丁目4 TEL 042-337-4010

すべての子供が幸せになる学校

校長 森田 康之

～ ぜひ、お越しください ～

6月7日の土曜授業日に、延べ538名の参観がありました。児童数が414名ですので、全校児童より多くの来校があったこと、嬉しく思うとともに、保護者のみなさんの関心の高さを感じる事となりました。

ありがとうございました。

また、前号で、[第1回 Café 校長室]の開催もお知らせしましたが、こちらは若干名の参加でしたが、宿題のことや虫・カナヘビのこと、子育ての楽しさ苦勞など、いろいろな話をしました。

次回は、**7月10日(水)10:30～11:30と12日(金)10:30～11:30に[Café 校長室]を開催します**ので、お時間がありましたら、麦茶を飲みこいらしてください。お待ちしております。

[Café 校長室]にもぜひお立ち寄りいただきたいのですが、それ以上に、ぜひぜひ参加いただきたいのが、**7月10日(水)13:30からの講演会**です。

大阪市立大空小学校 初代校長 木村泰子さんにお話しいただきます。

家庭教育講座

7月10日(水) 13時30分から16時15分まで

講演会というと、なんとも肩が凝りそうです、木村さんのお話はそんなことはありません。

一方的に講師が話すような講演ではなく、会場のみなさんと対話しながら話されますので、ゆったりした気持ちでお話を伺うことができます。

途中からの参加も大丈夫です。小さいお子さんも一緒に結構です。

はじめにみなさんで、約45分の大空小学校の動画を見ます。

そのあと、木村さんのお話を90分間かせていただく予定です。

幼稚園のお迎えが終わってからでも、お子さんが帰宅したのを確認してからでも大丈夫です。

ぜひぜひ、ご参加ください。迷ったら、参加です。

ぜひ、木村泰子さんの話を聴いていただきたいので、木村さんの最新刊【お母さんを支える言葉】から「I 尋ねる レールを敷くのは、親の仕事じゃありません」を紹介します。

親が敷いてくれたレールに乗って、「よかった」「幸せになった」という子どもにはあまり会いません。

親は子どもにけがをさせたくないから、一生懸命に石をどけようとします。そして、順調に前進できるようにレールを敷きます。

でもね、それって、今までの親が生きてきた中で培った価値観が土台になっているでしょう？

「こうしたら絶対、うちの子は幸せになれる」

「このレールに乗ったら100%安心・安全」

もしこれが断言できたら、そのためのレールを敷くのは何にも悪いことじゃないですよ。

でも、お母さん、そんなことわかりますか？

十年後、二十年後の社会なんて、どうなっているか想像もつかないでしょう。

お母さんが敷いていたレールに乗って、一生懸命努力して、勉強して、いざ十年後や二十年後の社会にたどりついたとき、もしも、「どうして自分は、こんなに不幸なんだ」「自分のやりたいこと、いっつもできへん」ってなったとしたら、どうですか？まず一番に、ここまでのレールを一生懸命に敷いてくれたお母さんに、子どもは恨みを持ちませんか？

こういう親子が今の日本には、たくさんいます。

お母さんは、この現実から真摯に学ばなくちゃいけないときがきていると思います。

結局はね、「親が自分の考えを持って、子どもを育てていますか？」ってことに尽きると思います。早く始めたほうが有利だから。

周りが中学受験するから。

みんなが塾に行き始めたから。

後々、子どもが苦労しないだろうから。

こんな理由でレールを敷いているのだとしたら、それは、自分の考えじゃなくて、周りに動かされているからではないでしょうか。

「うちの子どもに必要だから、この道を選びます」というのと、「うちの子どもには必要ではないかもしれないけれど、みんなと同じようにしないと子どもが困るかもしれないから、この道を選んでみます」というのは、ぜんぜん別のものですよ。

子どもにとって「そのレールを敷くことが必要かどうか」を判断するのは、親です。

そのためには、常に子どもと対等な関係で、本音で会話ができていますか。本音で会話ができる親子関係があるかどうか。そこが問われているんだと思います。

ちゃんと子どもと対話して、子どもが納得して、「うちの子には必要だ」「子どもも本人もやる気になっている」となれば、レールを敷くこともありなわけです。

是非を問うのではなく、子どもの本音や真意に耳を傾けて、親子で対話すること。

お母さんが一人で決めることじゃないですよ。そうしたら、抱え込まなくて済むでしょう。

子どもの人生の主役は、子どもなのだから。

